

栽培豆花

山桜の里 戸赤



今年は播種した豆が
腐食することもあった



遅霜を心配していっ
定植するかが難しい

大つぶ実る 良い年で

ありますように



今までの経験から株間
を思い切って広げた

花豆の定植
地元特産の花豆は五月二十日ごろ定植されました。ポット苗の芽出し具合や畝間、株間の間隔など、栽培者同士情報を交換しながら作業を進めています。

山桜の盛りは五月二、三、四日ごろだったことし、やはりイベント三日間を開花最盛日に合わせることは難しく、九日の連休前半は肌寒く連休後半になってからいい花を見ることができました。この間の来訪客は千五百人と推計されます。

年間通じて外来者との接点を持ちながら、地域活性化につながる方法を考えていきたいと思っております。今年には日大ジャズ研究会との連携がうまれ、季節

山桜の祭り



凍み大根、花豆パイなど物販はお客様に喜ばれる



手打ちそばは一番人気



まつり前日に仕込みの準備



イベント初日の4月27日季節外れの降雪、サクラの花芽も素直には咲けなかったのかもしれない



日大ジャズ研究会が応援出演

感を生かした交流など継続的な活動に向けた協議を始めることになっています。

【木地の学習No.31】第2回目は寛政七(1795)年であるが、氏子狩帳が残されていないので氏子狩をしたものかどうかは分からないが、次の文書によって金龍寺の住僧興宗が来たことは確かである。①「此度木地挽住居之山々巡回ニ付分明ニ相知候間…」②寛政七年の「宗旨讀印證」を七点ほど確認している。今までの氏子狩帳には木地小屋巡回の漏れがあったが、この寛政七年の文書の木地小屋巡回は、ほぼすべての木地小屋を回って宗旨讀印證を発行している。次回の寛政十二(1800)年の君ヶ畑氏子狩帳二九号簿冊には、寛政七年の木地小屋をなぞるようして巡回しているのが分かる。もれなく巡回するようになるこの時期が、根元地が会津木地小屋に対して確固とした支配権を有した時であるとみなしてもよいのではなかろうか。享和三(1803)年も金龍時による回国と思われるが、この年の「宗旨讀印證」は見つかっていない。しかし、「是迄寛政七卯年、享和三亥年近頃者文政十亥年」に会津に来て、人別攻めを済ませたという文書がある。文政十(1827)年には、蛭谷と君ヶ畑が共に会津での氏子狩をしている。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) <つづく>

